

岡山県農林水産総合センター森林研究所試験研究計画書

番号	R5-事前-1	課題名	県産ヒノキ材を内装として使用した空間の快適性の評価				
期間	R6~R8年度	担当部課室	木材加工研究室				
課題設定の背景	<p>1 政策上の位置付け 県産ヒノキ材を内装として使用した空間の快適性の評価は、循環資源である木材・木質バイオマスの利用促進や持続的な森林経営の推進など、「21おかやま森林・林業ビジョン」を推進していく上で必要な試験研究である。</p> <p>2 県民や社会のニーズの状況 近年の人口減少に伴い新規住宅着工数は減少の一途をたどっており、今後木材需要を拡大するためには、構造材だけでなく内装材の需要も高める必要がある。そのため、県産ヒノキ内装材を使用した空間の特性や効果を明らかにし消費者に訴求していくことは重要であり、ニーズは高い。</p> <p>3 県が直接取り組む理由 ヒノキ内装材を使用した空間の快適性を評価することは、県産ヒノキの付加価値向上に寄与するものであり公共性が高い研究である。また本研究は、設備や経費等の面から民間レベルでは困難であり、県が主体となって実施することが妥当である。</p> <p>4 事業の緊要性 近年、住宅の快適性への関心は高まっており、県産材の需要拡大を図るためには、可能な限り速やかに実施することが望ましい。</p>						
	試験研究の概要	<p>1 目標 ヒノキを内装材として用いた空間の香り、調湿機能、見た目の印象、ヒトへの影響などを数値化することにより、空間の特性やヒトへの効果・効能を明らかにする。</p> <p>2 実施内容 (1) 製造条件の異なるヒノキ内装材を使用した空間の香りの強度・持続性等の評価 ① 製造条件の異なるヒノキ材による空間の香りの違いの評価 ② ヒノキ内装材空間の香りの強度や持続性を評価 (2) ヒノキ内装材を使用した空間とクロスを使用した空間における諸性能の把握 (3) ヒノキ内装材を使用した空間がヒトの心理面・生理面に及ぼす効果の検証</p> <p>3 技術の新規性・独創性 ヒノキ内装空間の香りを含めた諸性能を定量的に評価し、さらにヒトへの影響を検証した研究はほとんどなく、新規性・独創性共に高い。</p> <p>4 実現可能性・難易度 実現可能である。</p> <p>5 実施体制 木材加工研究室において研究員1名が実施する。</p>					
		成果の活用・発展性	<p>1 活用可能性 ヒノキ内装空間の特性や効果が明らかになることにより、消費者に訴求する際の資料とすることができ、県産材の需要拡大に寄与する。</p> <p>2 普及方策 研究結果をとりまとめた普及資料を作成し、関連企業に配布する。</p> <p>3 成果の発展可能性 ヒノキ内装空間の諸データが収集できれば、さらにその空間の快適性向上を検討する際の基礎資料とすることができる。</p>				
実施計画			実施内容	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	(1) 香りの強度・持続性等の評価 (2) ヒノキ内装空間とクロス空間の諸性能の把握 (3) ヒトへの効果検証						〔 単位 : 〕 千円
		計画事業費	1,000	1,000	1,000	3,000	
		一般財源	1,000	1,000	1,000	3,000	
		外部資金等					
	人件費(常勤職員)	2,400	2,400	2,400	7,200		
総事業コスト	3,400	3,400	3,400	10,200			